令和３年度第３回富山県公立大学法人評価委員会　議事録（概略版）

１　日時　令和３年10月28日（木）　14:00～14:30

２　場所　富山県立大学射水キャンパス　９階特別会議室

３　出席委員

・林　　幸秀　　〔(公財)ライフサイエンス振興財団理事長〕※委員長

・藤重　佳代子〔(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長〕

・堀　　仁志　　〔堀税理士法人代表社員・公認会計士〕

・山下 清胤　　〔(一社) 富山県機電工業会会長・三協立山㈱相談役〕

４　会議の概要

・司会が開会を宣し、経営管理部長より開会の挨拶

・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。

・委員長より、(評価の対象である) 法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事１　第１期中期目標期間の業務実績に関する評価について

＜事務局説明＞

資料１に基づき、第１期中期目標期間の業務実績に関する評価（案）について説明

（委員長）

本案についてのご意見をお願いしたい。

（委員）

「浅野酵素活性分子プロジェクト」とはどういうものか。

（法人）

本学の生物工学科の浅野教授が獲得されたプロジェクト。ＪＳＴ（国立研究開発法人科学技術振興機構）から６年で１０億円以上のお金を頂き、酵素の工業利用についての研究を進めた。研究については最高評価を得て完了しているが、現在もまだ詰められていないことの研究を進めている。

（委員長）

補足すると、大学の研究費は、大学自身が持つある程度自由になる経費に加え、国が所管する学術振興会から出る科研費から成り立っており、その他、宇宙とか原子力などの大きなプロジェクトにはまた別の経費で出していく、という仕組みが続いていた。しかし、科研費は基礎研究が中心となるため、それ以外の研究の経費とするため、自分がいたころの旧科学技術庁が作ったものの一つがこのERATOというもの。これは少人数の非常に優秀な研究者を選び、その方に、まとまったお金を渡して研究を促進していくもので、現在も続いており、それなりの成果を上げてきていると思っている。

ERATOのプロジェクトは、東大、京大、東工大などの大きな大学は結構取っているが、県立大学のように小さな大学で、しかも地方にある大学が取っているのは非常に珍しいことである。今後の課題は、浅野先生の後に続く人が出るよう、人材を育成していくことだと思う。

（委員）

現在、浅野先生は在籍しておられるか。

（法人）

本学の定年年齢を超えているが、現在も雇用し研究を続けている。理由の一つとしては、「くすりのシリコンバレーＴＯＹＡＭＡ」という、富山県、富山大学、薬事総合研究開発センターと共同で行っている10年間のプロジェクトがあり、現在は４年目であるが、その中心メンバーの一人であるため。

（委員）

そういうすばらしい先生がこういう地方の大学にいることは、県立大学の宝の一つではないかと思う。それをもっと育てていく、広げていくことをぜひ進めていただければと思う。

（委員）

非常によくまとめていただいている。特に、学生に対しての県立大学の取組姿勢を高く評価したいと思う。

この６年の中期計画をつくった当初から推移を見てきて、２３０人の定員が４６０人まで増え、看護学部もでき、本当に驚く限り。その中で、県立大学の先生方、法人

の皆さんは、常に学生のほうを向いて考え行動してこられたと評価している。

ただこれで十分かというと、まだ検証はしていかなくてはいけないと思う。県立大に入りたいという学生がどれだけ手を挙げてきてくれるのか、卒業生の皆さんが母校に対してどれぐらいの熱い思いを抱いているのか、そんなところでいろいろと評価ができるのかなと思う。

（委員）

評価の年度の経過を見ると、年々よくなっており、ここ数年、皆さんが頑張って取り組んでこられたということで、すばらしいと思う。

また、急な新型コロナウイルスの感染があり、遠隔授業など通信環境の整備に苦労されたと思う。引き続き、このような場合に対応できる準備を整えていくことを期待している。

（委員長）

私も基本的には先生方の意見と同じで、よくまとめていただいたと思う。

全体について、修正などなければこのまま承認ということで認めたいと思うが、いかがか。

（各委員）

異議なし。

（委員長）

それでは、これを案として示すということで、今後の手続きとしては、法人に対し、意見の申立ての機会を与えることになっている。これらについては事務局と協議して、委員長である私に一任とさせていただきたい。

（各委員）

異議なし。

（委員長）

それでは、以上で終了する。